

1. 調査報告概要表

作成日 2010年6月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1090200062
法人名	有限会社 ミヤマ
事業所名	グループホーム三山ホーム箕郷
所在地	群馬県高崎市箕郷町東明屋400-1 (電 話) 027-371-7131

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成22年3月 25日

【情報提供票より】(22年 9月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤専任5人兼務1人非常勤 5人常勤換算6.4人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋ヘーベル 造り
	2 階建て 1～2階

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	1日1000円		

(4)利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 75 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	戸塚医院 田中歯科 みさと診療所
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

既存の2階建ての建物を改築したホームである。管理者は外部の意見(評価や家族の意見)に対し真摯に受け止めて意見を聞く努力を行っている。防災面では命を守る事を大切にしてスプリンクラーの設置を行った。運営推進会議で地域の協力連絡網の作成が計画されている。地域に向けて施設の知識を還元することを理念に掲げ地域と一緒に利用者に関わる努力を行っている。ケアの提供者としては家族ではない事を念頭に家族からアンケートをとり利用者と家族との関係が切れない工夫を行っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善項目はなかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	調査項目を職員に分担してもらい、会議で職員の意見を聞き管理者がまとめ作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的に開催されており、出席者は商工会女性部、区長、老人クラブ代表、家族、利用者、箕郷支所職員などである。施設から現況の報告や外部評価の結果が報告されている。地域の出席者からは地域行事の案内があり、利用者はそれらの行事に参加している。スプリンクラーの設置報告、夜間想定での防災訓練計画、地域の協力依頼を行っている。地域の協力体制の連絡網の作成を区長が作成する予定になっている。情報交換の中での道路整備なども速やかに行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には3ヶ月毎にアンケート用紙を送り意見を言いやすいように努力している。又面会時などにも声を掛けて苦情や意見を吸い上げようとしている。家族から入歯のことやお菓子などの意見が寄せられている。意見に対して職員と検討し情報の共有を行い、家族に結果を報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	天気の良い日には散歩に出掛け地域の人との交流をしている。又避難訓練のときには地域参加者に炊き出しを行い炊き込みご飯や豚汁などを振舞っている。公民館、文化会館、福祉センターなどに出掛け地域にホームを知ってもらおう努力を行っている。地域の祭りに出掛けて行ったり、施設の祭りに地域の人を招待している。施設の知識を地域に還元する目的で介護者教室、認知症サポーター講座などを開催している。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設の知識を地域に還元することを理念に掲げ、地域との関係を大切にしている。理念は各ユニット毎にある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々管理者、職員は玄関、休憩室などに貼られている理念を見たり、会議で話し合っ、理念を共有して実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との関係を大切にしている。地域のお祭りに参加したり、ホームの祭りに地域の人を招待したり、地域の人がボランティアで訪れ一緒に作品を作ったりしている。東明屋地区のふれあい祭りでは地域の人が利用者を気遣ってくれ、継続参加の効果が見えてきた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員に自己評価を分担して記入してもらい、職員の意見を吸い上げている。その後管理者が取りまとめ記載している。改善シートを用いてサービスを見直している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催されている。施設からは現況報告等されている。参加者から地域の行事の案内や協力申し出などがでて、防災の地域の協力依頼が実現している。回覧板も回ってくるようになった。町の行事のときに利用者の作品なども展示販売する計画が話合われている。地域にホームからは雑巾等を寄付している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が行政に出向く時には利用者も一緒に出掛けしている。認知症サポーター養成講座を市との連携で開催している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の日常を報告している。又外食時など協力の依頼を行っている。急変時には電話で指示を伺っている。月に一度「三山ホーム通信」を家族に送付している。運営推進会議の日程も案内されている。行事等の案内と個人の健康状況・近況報告は担当者が記入し家族に送られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族の意見を大切にしたいと考えている。家族が意見を言いやすいように3ヶ月毎にアンケートをお便りに同封している。家族からの意見には速やかに改善している。家族からは「お菓子を持ってきたら本人に渡してほしい」「食事の時入歯をしていなかった(自分でとってしまった)」等の意見が出た。すぐに検討し家族に結果を報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は今年度は無かった。入職した職員はまず利用者とホームの日常を体験してもらう。その後、先輩職員から仕事を教えてもらい、3ヶ月を目安に入職してもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が3ヵ年研修計画を作成し職員教育に取り組んでいる。アンケートをとり職員から意欲を引き出している。実践者研修、褥創、身体拘束、新任研修に参加しており、研修内容は職員会議で報告している。研修を受けた職員は他職員に対して研修の成果を実践に生かせるように教えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。レベルアップ研修、認知症基礎研修、管理者研修などに参加している。他グループホームとの連携があり行事などを誘い合って参加している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に施設を見学してもらい、お茶など飲んで雰囲気を味わってもらおう。又施設から出向いて面談する事もある。家族と施設利用について話し合い、利用者の入所後のケアに不合理の無いようにしている。慣れるまで体験利用も出来る。2階に上がる階段の上り下りには注意を払い、確認してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者には人生の先輩として、裁縫・料理・お習字の技術など教えてもらっている。普段生活しながら教えてもらうことも多く、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から本人の意向を確認している。表現できない人からは家族から生活歴の情報をもらいサービスに結び付けている。誕生日には本人の食べたい物の希望を聞いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向に対しては3ヶ月に一度アンケートをとっている。担当者は本人の意向を職員会議にかけ、話し合い、ケアマネジャーが介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しと随時の見直し、毎月のモニタリングが行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援、受診の支援、買い物支援、墓参りなど利用者の希望に添った柔軟な支援がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。協力病院から月に2回の往診がある。協力病院への変更もできる。受診結果は家族に「みやま通信」上で報告されている。個人で受診した結果は家族からその情報を聞いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にターミナルケアに対する確認書を取っている。食事ができる、できないでホームでの対応可能な方針ができています。入居後の体調や精神的な状況も踏まえてその都度の話し合いを行い、その都度の対応ができる。家族の希望を大切にしたいとホームは考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への排泄時の声掛けなどプライバシーに関する言葉の使い方など職員会議などで取り上げ職員は共有している。書類は事務所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事開始時など大まかな時間の流れはできている。天気の良い日には外に出る人が多い。それぞれの希望の場所で好きな事ができる。嗜好品も自由だが今はお酒やタバコを吸う人はいない。食事も体調などによりその人に合った時間になっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理したり盛り付けたりしている。下ごしらえ、下膳、食器拭きなど職員が行っている。食材は職員が購入し利用者と食材庫と一緒に取りに行っている。味噌汁など利用者が盛り付けている。職員と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合できめてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日出来る体制がとられており希望者は自由に入浴が出来る。最低でも週に3回の入浴支援がされている。入浴できない場合には足浴が行われている。ゆず・菖蒲など季節の入浴も楽しめる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割として、食器拭き、洗濯物たたみ、洗濯物干し、料理の下ごしらえ、盛り付け、下膳などがある。楽しみごとには、花見、地域交流、ピクニック、榛名保養所に出掛けることである。気晴らしとしてドライブ、誕生会、芝桜見物、梅もぎに出掛けるなどの支援がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には外に出て散歩などしている。又外での体操・ドライブなど支援がある。芝生で寝転がる事もできる。防災訓練のときは炊き出しを行い炊き込みご飯、豚汁など地域の参加してくれた人達にも振舞われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階と2階の玄関は別になっている。管理者、職員は鍵を掛けることの弊害を理解している。見守りを行い鍵を掛けないケアを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行っている。1回は消防署立会いで行われている。昨年運営推進会議で地域協力連絡網の作成依頼を行い地域の人が計画をしている。火を出さない、夜に火を使わないことを共有している。利用者、職員の命を大切にしたい計画を立てている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が利用者の希望や季節などを考えて1ヶ月分の献立を立てている。食事は10の単位で記載されている。水分は一日1000を目標に支援を行い摂取量が記載されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が飾られ季節感を感じさせる。食堂についたてがあり飾り物がされている。吹き抜けの食堂は開放感を与えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものが持ち込まれて個性ある居室となっている。テーブルやテレビ、ラジオ、椅子等持ち込まれている。居室にお花が飾られている。		